

# 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

2026 年 3 月 岩田望来

## □はじめに

こんにちは、岩田です。今月も無事に生きています。

日本を発って 8 か月が経過し、メキシコにいられる時間も残り 1/3 となりました。本当に早い……！今回のレポートでは、留学 8 か月目の慣れと私なりの対策について書いていきたいと思います。留学を考えている人の参考になればと思います。

## □8 か月目の慣れ

こんなことを書くと多方面から怒られるかもしれませんが……、今後長期留学に行く誰かの役には立つかもしれないという思いで正直に事実を書きます。

私はスペイン語の能力的に研修中に CEPE を出て外部で研鑽することができないので、研修が終わるまで CEPE に通うことになっています。CEPE のセメスターは 4 周目で、楽しいのは事実ですが、最初の頃ほど新鮮さはありません。慣れ特有のなんとやら。

私は自分のたるみを nivel 4 のときに自覚しました。このままではダメだと急激に頑張りすぎて試験前々日夜に高熱を出してしまい、無理しすぎもよくないと思いました。nivel 5 に通う現在は、無遅刻無サボリ、休憩時間を守る、忘れ物をしない、毎日予習と復習をする、毎日単語を 11 個覚えるということを敢えて意識して守るようにしています。このような当たり前のこともできなくなるのが中だるみの恐ろしいところだなと思います。

ここまで来るのにたくさん努力した。両親、ゼミの先生、友だち、広島県の担当の方々など、色々な人の力を借りた。それらを全て無駄にしたいのか。自分に問いかけたとき、しっかりしなければと改めて思ったのです。怠けたくなるときこそ踏ん張りどきですね。頬を叩いて、地を踏みしめて、確かに前進します。

## □念願の観劇

とはいってもずっと勉強ではそれこそ飽きが出てきます。それでは同じことの繰り返しなので、私の中から怠惰な私を追い出すべく、私は毎週土曜日夜を「los sábados para ver los teatros」に自分で指定しました。観劇を習慣づけることにしたのです。

話すと長くなるのですが、メキシコに来た理由は大きく①多文化共生の実現方法を知る②メキシコと日本の演劇の違いを探る、のふたつでした。①は住むことで分かることが多かったのである程度進められていたのですが、②は語学力の問題で中々踏み出すことができませ

んでした。

「私は nivel 5 の女！観劇くらいできら！」ということで、ひとまず Centro Cultural Universitario（通称 C.C.U. UNAM 内にある、美術館や映画館などがある文化的な領域）にある劇場、Teatro Juan Ruiz de Alarcón に突撃。Taquilla のお姉さんに色々教えてもらい、そこでちょうど上演されていた『El zoológico de cristal』（『ガラスの動物園』、原作はテネシー・ウィリアムズ）を観劇することになりました。



左：C.C.U.。隣にある現代美術館にも行ってみたい。

中央：チケット。C.C.U は学生だと 75 ペソで観劇できる。

右：Teatro Juan Ruiz de Alarcón。思っていたより大きかった。

席をお姉さんにおまかせした結果前列ど真ん中というとてつもなくいい席に座ってしまいました。何故か自分が舞台に立ったときよりも緊張した状態で始まった約 150 分の演劇。それはそれはとんでもなく面白かったです。

もちろん台詞全てを理解することはできませんでした。そもそも 150 分間スペイン語垂れ流しというのも初めての経験だったので、割と初めから全てを理解するつもりで来ていませんでした。むしろ非言語的表現、つまり演出に着目するつもりでした。

衝撃だったのは煙と炎を使った演出です。主人公は作中で 10 本以上は煙草を吸うほか、後半からは蠟燭も登場します。本物の煙、本物の炎です。煙草の煙が主人公の周囲を覆うことで主人公の現実逃避を示唆するほか、照明に当てられた煙がノスタルジックな雰囲気を出していました。蠟燭の炎は暗転後に主人公の姉が吹き消すことで幕引きを表現するのです。目から鱗でした。私の中には絶対にないどころか、日本では見ないであろう演出だったからです。日本でこれをしたらおそらく火災報知器が鳴るな、煙草が生活により近いメキシコならではだなと思いました。

また先程全てを理解するつもりはなかったと言いましたが、さすがは演劇の役者というべきか、台詞がクリアで聞き取りやすかったことも印象深いです。CEPE の先生よりも聞き取りやすかったかもしれません。その上アクセントも大袈裟ながらも自然で、単語の輪郭も分かるのに単語と単語の繋がりも分かるという不思議な現象も起こりました。戯曲が元なので文法の崩れもなく、直説法か接続法か、時制はいつか、この直接人称代名詞は何を指すかな

どを捉えることもできました。大まかな物語の進行が分かればいいかな程度の覚悟で行ったので、これは純粋に驚きでした。スペイン語のいい勉強になりました。



左：公演前の舞台。場転なし&ほぼ役者出ずっぱりだった。

右：念願の観劇に興奮気味&緊張気味な私。調子に乗って指ハート。

勇気を出して行ってよかったと心から思いました。

今週は C.C.U ではなく別の劇場に行こうと思っています。その感想も次月のレポートに書くつもりです。

□おわりに

正直先月の半ばまでは多少怠けが出ていたと自分では思います。心から反省しています。

帰国まであと4か月しかありません。勉強と観劇に取り組んで、残り少ない時間に対する焦りを程よく持って、引き締めていきます。